

平成 1 8 年 3 月 2 日 招 集

伊 万 里 市 議 会 第 1 回 定 例 会

市 長 提 案 理 由 説 明

(はじめに)

平成18年第1回定例会の開会にあたり、市政運営について所信の一端を申し述べますとともに、今議会に提案いたしました平成18年度当初予算、並びにその他の議案について概要をご説明申し上げます。

私は平成14年4月に市長に就任して以来、市民の皆さまの負託にこたえるため「さわやか市政」をモットーにして、伊万里市の活力と発展のために全力を注いでまいりました。

常に顧客の満足度に配慮する民間経営感覚をいち早く定着させるため、市民サービスの向上に直結する業務の見直しに着手するとともに、固定観念や古い慣習にとらわれない柔軟で新しい発想を促すための組織機構の見直しや職員の意識改革を図る一方、各地域でのタウンミーティングや各種の会合、集会などにおいて市民の皆さまと積極的に交流を重ねることによって、常に市民の目線に立った行政経営に努めてきたところです。

厳しい財政状況の中ではありますが、市民の活気に支えられ、市勢は着実に進展しているものと考えておりまして、議員各位や市民の皆さまのご理解とご支援に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

私は、さまざまな施策を推進するにあたって、「安心」「活力」「発展」の三つの視点に基づき、他の自治体に追随しない独自の発想を持ちながら、地域の特性や資源を最大限に活用することを強く意識して取り組んでまいりました。

その結果、質の高い農林水産物と豊かな食文化を広くアピールする、全国的

にも珍しい「食のまちづくり宣言」や、伊万里梨などの特産物を海外輸出する伊万里・アジアネットワーク事業、海洋温度差発電の研究に関する規制緩和を目的とした構造改革特区の認定など、全国の注目を集める先端的な取り組みができたものと思います。

また、長年の課題であった伊万里駅周辺の整備が完了したほか、市民の意見を取り入れて計画の見直しを図った伊万里ファミリーパークがこの春に一部オープンを迎えるなど、大型プロジェクトの推進に力を注ぐ一方で、市内を循環するコミュニティバスの運行やタクシーのバリアフリー化の促進など、市民生活の足元にいたるキメ細かな配慮にも努めたところです。

このほか、市民の積極的な参画を促して取り組んだ市制施行50周年の各種記念イベントや食のまちづくり、地域の意向を取り入れて人選する地区公民館長の公募制など、「市民と行政の協働」の仕組みが浸透しつつあり、従来の行政主導ではない新しいまちづくりの基礎を築くことができたことも大きな成果の一つと捉えております。

積極的な情報公開やパブリックコメント制度などによって市民の皆さまの市政に対する関心と協働のまちづくりの気運は高まりを見せており、真の地方自治をめざして、さらに「市民が主役」のまちづくりに発展し、定着することを期待しているところであります。

（市政運営に対する考え方）

さて、これからの地方自治体経営における最も大きな課題のひとつは、人口減少問題であり、多方面での様々な影響が考えられます。

少子化と団塊の世代の引退に伴う生産年齢人口の減少は、この先の社会保障制度の存続や経済活動などに大きな影響を及ぼすとともに、特に地方においては、税収不足に伴う財政状況の悪化が進み、各種公共サービスの低下につながる懸念もあることから、定住人口の確保や交流人口の拡大に加え、地域住民やNPO法人、民間企業などの多様な主体が行政と協働して公共サービスを担う新たな仕組みづくりが必要となってきました。

また、これまで長い間、国が定める一定の行政サービスを確保するために画一的に進められてきた地方自治から、住民に身近な市町村が主体的に個性豊かなまちづくりを進めていこうという地方分権改革の動きの中で、地域間競争は一層激しさを増し、いろいろな面で、地方が自立していくために必要な地域の力が試されようとしております。

一方、ここ数年、世界各地で続発する大規模な地震や気象災害などに加えて、複雑な社会の中で増加し、凶悪化する犯罪事件なども身近なところで起こっており、市民生活の「安心」「安全」の確保が強く求められています。

このように、時代の潮流がうねりとなって押し寄せてきている今日、その波に飲み込まれずに凛^{りん}として輝き続ける伊万里市であるためには、地域が元気で活力に満ちていなければならないと思います。

こうしたことから、山積する課題や多様化する住民ニーズに的確な対応を図る確かなリーダーシップを発揮するとともに、職員の力を最大限に活かし、伊万里を愛する市民の皆さまと力を合わせるにより、誇りを持って次代に引き継げる元気な伊万里市、「住みたいまち伊万里、行きたいまち伊万里」に向けて全力を注いでまいり所存であります。

(主要な施策)

以上申し上げました市政運営の基本的な考え方に基づき、これからの地域づくりについて、「元気」をキーワードにした5つのまちづくりのテーマにそって申し述べたいと思います。

まず、一つめは「歴史や伝統文化、特産品など地域の宝を生かした元気なまち」です。

芸術性あふれる鍋島や古伊万里の積出港としての歴史など、焼物の里を広くアピールするため、戸栗美術館の建設促進や市街地における焼物のまちらしいイメージづくりに加え、食や環境など地域の特性を活かした産業観光の展開を通じて、観光客誘致による交流人口の拡大に努めます。

また、郷土芸能や祭りといった地域固有の伝統文化をよりどころにした地域のコミュニティを深める取り組み、あるいは農業体験イベントや特産品の直売などを通じた地域間交流など、地域の活性化に向けた取り組みを支援してまい

りたいと思います。

二つめは「地域医療の充実と食のまちづくりによる日本一の健康長寿の元気なまち」です。

健康で長生きすることは市民共通の願いであることから、地域の医療機関と連携しながら市民生活の「安心」の確保に努めることとし、市民の期待が大きい中核的病院の整備については、市民病院と社会保険病院を統合するプランを中心に、その実現に努力してまいります。

また、高齢社会にあって、中高年齢者の健康づくり方策として「“つる・かめの里 伊万里” たっしゅか体操」や手軽に楽しめる軽スポーツの普及定着にも取り組むほか、食と健康の観点から「食のまちづくり」を推進することにより、生涯を通じた食育や安全で質の高い食材の地産地消を促進し、日本一の健康長寿のまちをめざします。

三つめは「企業誘致と地場産業の育成による雇用の拡大と生き生きと働ける元気なまち」です。

造船や I C 関連、木材加工など市内の主な製造業において設備投資が相次ぎ、自動車関連も含め、好況を見せていることは喜ばしい限りであり、引き続きこれらに続く優良企業の誘致とともに地場企業の振興に向けた支援に取り組み、若者や U I ターン希望者のための雇用の拡大に努めたいと思います。

また、伊万里港の利用を促進し、アジア諸国との貿易拡大に取り組むほか、佐賀大学の海洋エネルギー関連技術の集積による新しい産業の基盤づくりにも努めます。

四つめは「教育・福祉の充実と子育て支援による安心して子供を産み育てる元気なまち」です。

少子化が進む中、子どもを望む人が、安心して子どもを産み育てられるよう、医療費助成や保育料軽減などの経済的な支援を行うとともに、留守家庭児童クラブの設置箇所の拡大などにより子育てと仕事の両立支援に努めます。

また、家庭や学校、地域が一体となって、子どもたちを事故や犯罪から守り、子どもたちが将来に夢と希望を持って健やかに育つことができる環境づくりに努めてまいります。

五つめは「活力ある農林水産業の育成と商業を中心とする市街地が輝く元気なまち」です。

伊万里牛をはじめ、梨や小ネギ、きゅうりなど全国有数の産地として、一層のブランド力の向上と普及を図るとともに、担い手農家の支援に重点を置く国の農政に対応して、認定農業者や集落営農組織の育成、確保に力を入れるなど、地域農業の自立に向けた取り組みを推進してまいります。

一方、中心市街地に賑わいを創り出すためには、買い物客や観光客といった

人の流れを呼び込むことが何よりの課題であることから、商店街などとの連携による各種イベントの充実や焼物のまちのイメージづくりなどにより、魅力ある中心市街地の形成を進めていく考えであります。

以上、私のまちづくりの基本的な考え方を申し述べましたが、ご承知のとおり、三位一体改革の推進により、国と地方の財政は極めて厳しい状況にあり、本市における財政制約もかつてない厳しさにあります。

このため、「さわやか市政」をさらに推進することとし、現在進めている財政健全化計画を着実に実行するとともに、新たな行政改革のための大綱・実施計画を策定し、職員定数の削減や人事制度改革などに取り組み、簡素で効率的な行財政構造に転換を図りながら、元気な伊万里市づくりを力強く進めてまいっている所存であります。

(当初予算の主な内容)

次に、予算の主な内容についてご説明申し上げます。

今年は市長改選の年に当たりますので、平成18年度当初予算につきましては、政策的な経費を必要最小限にとどめ、義務的経費や経常的な経費を主に計上いたしております。

その結果、平成18年度一般会計当初予算の総額は175億8,200万円といたしております。

まず、総務費につきましては、市長選挙に要する経費や佐賀県からの権限移譲で7月から開始するパスポート発給事務に伴う備品購入費のほか、地籍調査事業や食を活かしたまちづくり事業に引き続き取り組むための経費等を計上いたしております。

民生費につきましては、障害児発達支援センター「ひまわり園」の整備事業のほか、障害のある方の生活支援や社会参加を促進するための各種事業に要する経費、留守家庭児童クラブの管理運営に要する経費等を計上いたしております。

衛生費につきましては、休日・夜間急患医療センター運営事業をはじめ、各種の健康診査や予防接種事業など、救急医療体制の確保と市民の健康維持を図るための経費に加え、塵芥処理に伴う環境センターの管理運営に要する経費等を計上いたしております。

農林水産業費につきましては、水田や園芸作物において春先に必要な農業機械の導入等に対する補助金や国営伊万里土地改良事業費負担金、林業研修センターなど施設の管理に必要な経費等を計上いたしております。

商工費につきましては、中小企業振興資金預託金のほか、企業誘致のための活動費やコミュニティバス運行事業に要する経費、伝統産業会館などの施設管理運営に要する経費等を計上いたしております。

土木費につきましては、緊急を要する生活道路の拡幅改良や市内全域の道路維持に要する経費のほか、伊万里ファミリーパークをはじめとする都市公園の

管理に要する経費、市営住宅の維持補修などに必要な経費等を計上いたしております。

消防費につきましては、消防力充実強化のための資器材の整備に要する経費のほか、武力攻撃事態などの有事に備える伊万里市国民保護計画策定に要する経費等を計上いたしております。

教育費につきましては、小中学校の空調設備の整備やPFI手法による学校給食センター建設と運営に要する経費、平成19年度全国高校総体開催に向けた準備に要する経費等を計上いたしております。

災害復旧費につきましては、平成17年度に発生した土木施設災害復旧事業及び急傾斜地崩壊対策事業にかかる経費を計上いたしております。

次に、特別会計についてご説明申し上げます。

国民健康保険特別会計につきましては、予算の総額を57億8,129万円とし、保険給付費及び老人保健拠出金等を計上いたしております。

介護保険特別会計につきましては、予算の総額を45億6,466万円とし、保険給付費等を計上いたしております。

立花台地開発事業特別会計につきましては、予算の総額を1,379万円とし、街路樹等の管理委託料及び職員給与等を計上いたしております。

公共下水道事業特別会計につきましては、予算の総額を20億1,905万円とし、浄化センター水処理施設増設に要する経費及び地方債償還金等を計上いたしております。

農業集落排水事業特別会計につきましては、予算の総額を1億2,671万円とし、処理場の維持管理費及び地方債償還金等を計上いたしております。

市営駐車場特別会計につきましては、予算の総額を1,677万円とし、管理運営に要する経費等を計上いたしております。

老人保健特別会計につきましては、予算の総額を60億8,432万円とし、医療給付費等を計上いたしております。

次に、企業会計についてご説明申し上げます。

水道事業特別会計につきましては、予算の総額を26億3,053万円とし、第9次拡張事業において簡易水道を統合するための配水管新設工事や水質問題解消と給水区域拡張に向けた波多津簡易水道再編推進事業に要する経費等を計上いたしております。

工業用水道事業特別会計につきましては、予算の総額を6億9,017万円とし、営業費用のほか、国道204号改良工事により必要となる配水管移設工事に要する経費、企業債償還金等を計上いたしております。

国民健康保険病院事業特別会計につきましては、予算の総額を11億8,305万円とし、医業費用及び企業債償還金等を計上いたしております。